

庭園間交流連携促進計画（周遊部門）

愛知サムライガーデン



2026（令和8）年2月
あいちの歴史観光推進協議会

取組の将来像（ビジョン）

【愛知の歴史観光について】

愛知県は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑をはじめ個性豊かな武将たちを数多く輩出した「武将のふるさと」です。県内には、武将ゆかりの城や寺社、古戦場などの史跡が数多く残されています。

また、江戸時代には、徳川家を始めとする有力大名の保護下で経済的に安定した地域でもありました。肥沃な平野部での農作物、海岸部で製造される塩にも恵まれ、味噌・しょうゆなどの醸造業が発展し、現代の「なごやめし」などの食文化へとつながっています。

江戸時代、江戸と京・大阪を結ぶ東海道は交通の要路として、参勤交代の行列や旅人が往来を重ねていました。愛知の東海道とその宿場町には、現在も、往時のたたずまいを残した町並みや松並木、一里塚が残されています。

「武将のふるさと」である愛知県には、現代につながる歴史や文化を感じることができるスポットが数多く残されており、本県ではこうした「武将」「城」「街道」を観光資源として活用した歴史観光事業を、積極的に推し進めています。



【課題について】

愛知県における歴史観光事業は、いわゆる「歴史ファン」からの関心を集めており、スタンプラリーや各種イベントには、毎年多くの方にご参加いただいています。

しかしながら、参加者の属性を見ると、40～60代や男性に偏る傾向が顕著となっており、若年層や女性層など、新たな層への働きかけを強化する必要があります。

また、こうした歴史観光への関心が比較的薄い層へ向けた取組は、国内事業にとどまらず、インバウンド誘客を進める上でも共通の視点であり、一定の効果があると見込んでいます。

■戦国武将にまつわる名所・旧跡や城郭への訪問希望(%)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
男性	25.0	7.9	20.7	32.5	59.6	54.2
女性	7.1	6.9	25.0	16.0	20.0	21.7

出所：愛知県「旅アト」WEB調査、2022年3月

【サムライガーデンの目指す姿】

従来の歴史ファン以外の幅広い層にも歴史観光への興味を持ってもらうため、新たに、「武将のふるさと」である愛知ならではの庭園を「サムライガーデン」として位置づけ、これを観光資源として活用することで、次のことを目指します。

① 歴史ファン層の拡大

従来の歴史ファン層向けに、「サムライガーデン」を愛知の歴史観光における新たな魅力として紹介するとともに、新規ファン層の取り込みに向けて、庭園そのものの美しさや親しみやすさなどに焦点を当てた取組を行うことで、若年層や女性層等へのファン層の拡大を図ります。

② インバウンド誘客の強化

外国人旅行者は、武将や庭園など日本ならではの観光資源への関心度が高くなっている一方、愛知そのものの認知度や、歴史観光資源が豊富な地域であることはあまり知られていません。

「サムライガーデン」という伝わりやすいワードを用いて、庭園の美しさや背景となる歴史を紹介し、愛知の武将や庭園を海外に向けても発信することで、愛知へのインバウンド誘客を促進します。

③ 県内各地への誘客

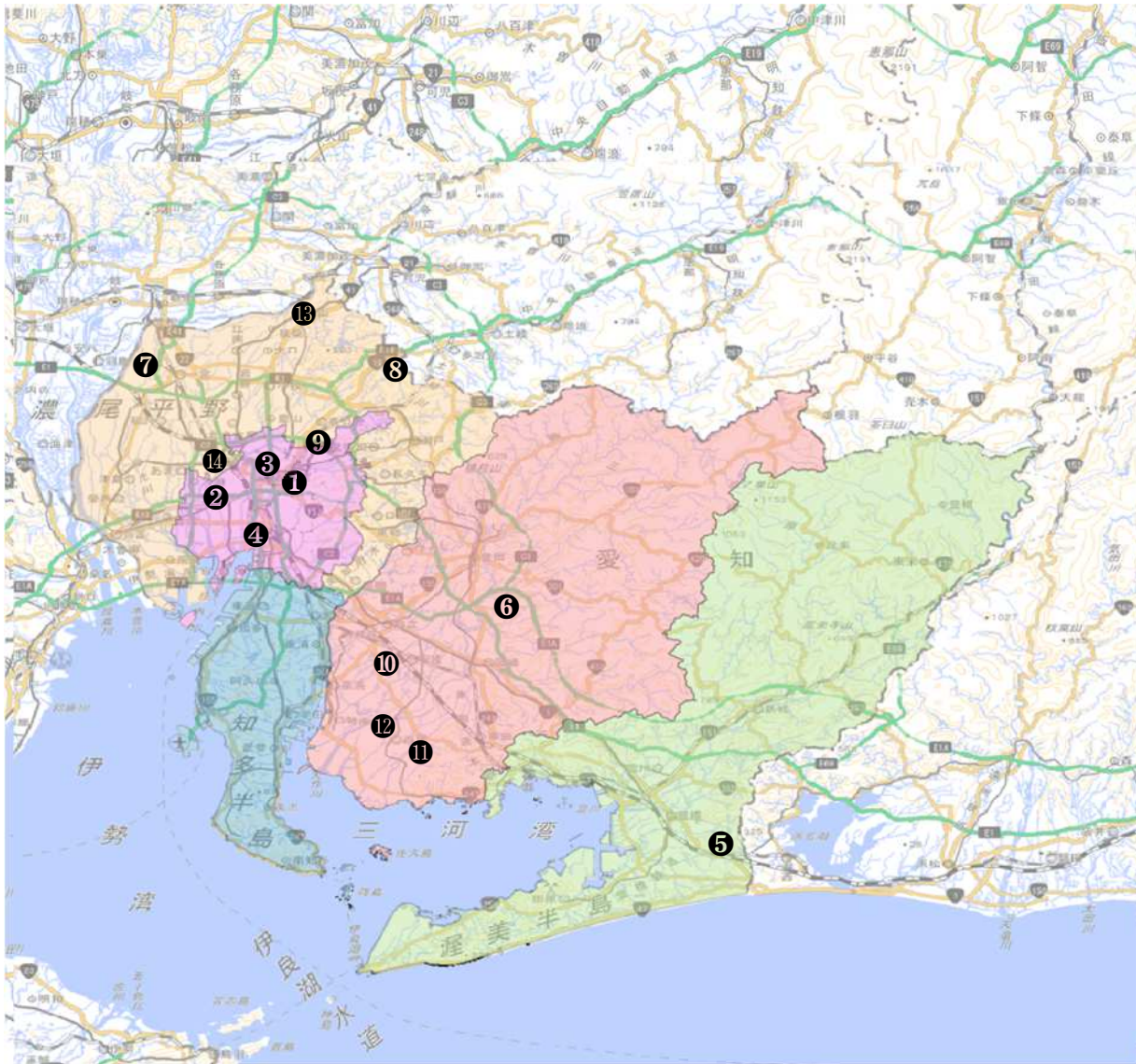
庭園は、所在地や作庭された時代、形式、背景などが異なり、それぞれの魅力があります。また、土地に根付いたストーリーを体感できる歴史観光との親和性は高く、これらを一体とした歴史観光スポットの提案により、県内全域への誘客促進につなげます。

④ 地域の庭園文化の継承と発展

各庭園に観光客が増えることで、庭園の維持保全に寄与するとともに、地域での観光消費の増加や庭園周辺の地域の活性化につながることを期待されます。

また、歴史的・文化的価値が高い庭園を次世代に継承することで、地域全体の文化遺産の持続を図ることもできます。

構成庭園の位置図（地図等）



- | | | | |
|---------------|------------|-------------|-----------|
| ① 徳川園 | ② 中村公園 | ③ 名古屋城二之丸庭園 | ④ 白鳥庭園 |
| ⑤ 豊橋市二川宿本陣資料館 | ⑥ 奥殿陣屋蓬萊の庭 | ⑦ 旧林氏庭園 | ⑧ 内々神社 |
| ⑨ 太清寺 | ⑩ 丈山苑 | ⑪ 華蔵寺 | ⑫ 西尾市歴史公園 |
| ⑬ 日本庭園有楽苑 | ⑭ 清洲城 | | |

※本計画では、上記の「構成庭園」との連携を想定しているが、個別の事業内容を踏まえて、一部の構成庭園と連携する場合や、構成庭園以外の庭園も含めて連携する場合がある。

計画のテーマ

サムライガーデン ～ 武将等にゆかりの庭園を巡る「あいち歴史ツウリズム」～

テーマ：武将や街道等にゆかりのある庭園を通じて、愛知の歴史観光の魅力を向上させる。

愛知県の観光振興を進める上のキーワードに、「あいち『ツウ』リズム」があります。愛知ならではの地域資源を、何度でも楽しめる奥深い「ツウ」な魅力として磨き上げ、その道の「ツウ」な人も満足できる付加価値の高い観光を目指すものです。

本計画では、このうち愛知県内に多く存在する武将や歴史街道等にゆかりのある庭園を「サムライガーデン」と位置づけ、お城や古戦場、歴史街道とあわせて、庭園を歴史観光コンテンツとして磨き上げることで観光誘客に活用します。



1 愛知の歴史と庭園文化

(1) 戦国・江戸時代の武将と庭園文化

愛知県は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という三英傑を輩出した地として知られ、戦国から江戸時代にかけて日本の政治・文化の中心的役割を果たしてきました。彼らの築いた城や屋敷は、軍事的な機能だけでなく、庭園を通じて権威や美意識を示す場としても重要な意味を持ちました。

清洲城は、1555（弘治元）年に信長が那古野城^{なごのじょう}から入城、1560（永禄3）年の桶狭間の戦いにはこの城から出陣した歴史を持ち、信長が天下統一への第一歩を踏み出した城といえます。

信長は清洲城を離れた後も、嫡男・信忠を城主に据え、たびたび清須に立ち寄っているほか、弟・信雄が城主の時代には「清須会議」が開かれるなど、清須の地は信長の天下統一の始まりの地であり、終わりの地でもありました。

信長の関心は主に戦略的な空間設計にあり、庭園文化の発展は後の時代に委ねられましたが、現在清洲城天主閣に隣接した庭園では、こうした信長にまつわるさまざまな出来事に思いを馳せる場所にもなっています。

また、織田家ゆかりの地としては、国宝・犬山城を有する犬山市も多くの歴史を持つ町として有名です。尾張（愛知県）と美濃（岐阜県）の境に位置するこの城は、1537（天文6）年に信長の叔父・信康により築城されました。木曾川を背に標高約 85 メートルの断崖上に建ち、凜と立つ姿は「後堅固城^{うしろけんご}」としての威容が

感じられます。

その犬山城の東には、信長の弟であり、茶の湯の創成期に尾張の国が生んだ大宗匠・織田有楽斎が創建した茶室「如庵」が移築・整備され、現在は「日本庭園 有楽苑」としてその美しさを楽しむことができます。



戦国一の大出世人・秀吉は、尾張中村（現在の名古屋市中村区）出身として知られています。生誕地は現在、市営の都市公園「中村公園」として整備され、日本庭園だけでなく、近隣に集まる秀吉にまつわる観光スポットを楽しめるエリアでもあります。

秀吉を御祭神として祀る豊國神社を始め、生誕地と伝わる太閤山常泉寺、秀吉の従者である加藤清正が自身の生誕地に再建した正悦山妙行寺などが残されているほか、豊國参道は毎年5月に近隣住民による「太閤まつり」でにぎわいます。



名古屋市の北東に隣接する春日井市には、秀吉の朝鮮出兵にまつわる話が残される「内々神社」があります。町の喧騒から離れたこの神社は、池を中心に自然の景色や自然石の巧みな配置が美しい庭園を有しています。また、昔から武将の尊崇が熱い神社でもあり、秀吉は朝鮮出兵時に戦勝祈願のため、御神木を軍船の帆柱として伐り出し、後に御神木の

お礼代をもとに神社の社殿が建てられた話が残されています。

農民から身を起し天下人となった秀吉は、その後茶の湯文化を愛し、庭園に美的価値を見出して、聚楽第や伏見城などに庭園を設けました。彼の美意識は、後の武将たちに大きな影響を与え、庭園が武士の教養を示す空間として定着していきました。

徳川家康は、1542（天文 11）年、岡崎城主・松平広忠の子として生まれました。松平氏は、豊田市の山里「松平郷」が発祥であり、岩津城（現在の岡崎市）、安祥城（現在の安城市）へと居城を移し、安祥の 50 年間で大勢力となりました。

駿河の今川義元の人質となっていた家康は、1560（永禄 3）年、桶狭間の戦いでの敗戦後、13 年間の人質生活から解放され、ようやく岡崎へ帰還。岡崎城主として独立します。また、家臣・酒井正親に今川氏の支配下にあった西尾城を攻略させ、城主としました。1585（天正 13）年には、家康の命で正親の子・重忠が大改修を行い、その後も西尾城は徳川家の譜代大名が代々城主を務めることになりました。

1610（慶長 15）年に築城が始まった名古屋城は、家康の代表作であり、名古屋のシンボルでもあります。江戸時代を通じて尾張徳川家の居城となり、また、城郭とともに庭園文化も発展しました。

1695（元禄8）年、徳川御三家の筆頭である尾張徳川家・尾張藩二代藩主の徳川光友は、隠居所として大曾根屋敷を造営し、これが後の徳川園の起源となりました。徳川園は池泉回遊式庭園として整備され、巨石の岩組みや滝、溪谷などが配され、日本の自然美を象徴する空間となっています。

なお、名古屋城は、1945（昭和20）年、戦火により天守・本丸御殿などの主要な建造物が焼失しましたが、1959年（昭和34）には大天守・小天守・正門（榎多門）を鉄骨鉄筋コンクリート造で再建、2018（平成30）年には本丸御殿が資料を元に忠実に復元されています。



（2）歴史街道と庭園文化

愛知県は、東海道や美濃路などの歴史街道が交差する交通の要衝として、江戸時代に宿場町文化が栄えた地域です。

東海道が東西交通の主要幹線になるのは、江戸時代よりはるか以前からであり、尾張の熱田・鳴海、三河の御油・赤坂には、近世東海道の誕生以前から宿場の機能があったといわれています。



1600（慶長5）年、関ヶ原の戦いに勝利した家康は、東海道諸国を勢力下におき、翌年江戸から京までの各宿場を指定し、伝馬制を布いて、近世東海道の原型を整えました。大坂の陣や、参勤交代制を経て交通政策を整えた江戸幕府は、東海道を始めとする五街道と付属街道を道中奉行の管轄下に置き、全国支配を強固なものとししました。豊臣家滅亡後延伸した東海道は、江戸日本橋から京・三条大橋までの「五十三次」、同じく大阪・高麗橋までの「五十七次」が併存しました。

街道沿いには本陣（大名や公家など貴人の宿舎）や脇本陣が設けられ、旅人や大名の休息の場として機能しましたが、これらの施設には庭園が併設されることも多く、地域の格式や美意識を示す空間として重要な役割を果たしたと考えられます。

2 サムライガーデンの可能性

愛知には、名古屋城や犬山城、岡崎城、清洲城などの名城とともに、武将たちの美意識や権威を反映した庭園文化が今も各地に残されています。これらの庭園を歴史観光資源の新しい切り口として評価し、観光誘客に活用することで、地域の魅力を高めます。

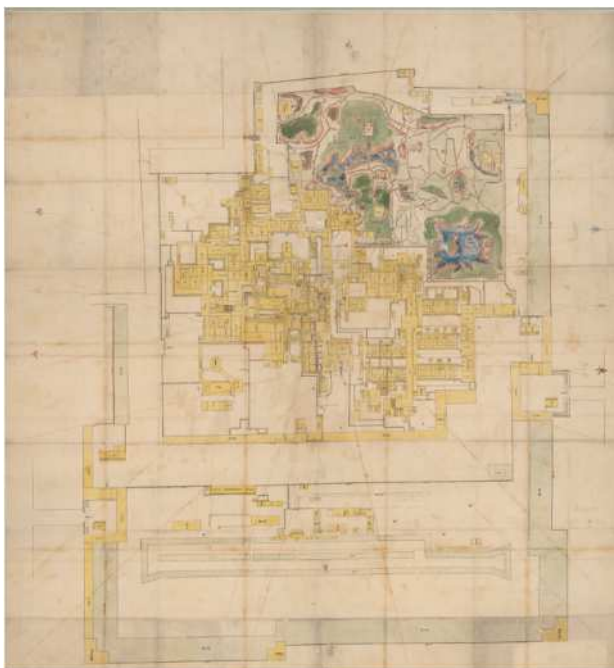
（1）「語れる観光資源」

庭園は単なる景観資源ではなく、地域を取り巻く自然環境や経済発展の状況な

ど様々な要素を背景に、武将の精神性や文化的教養を体現する空間として作られました。こうした地理的・歴史的背景を含めた「語れる観光資源」は、国内だけでなく海外からの観光客に対しても知的好奇心を満たす魅力的な要素です。

例えば、名古屋城の中で、最も広大な敷地を誇る二之丸には、かつて藩主の住居であり、政治の拠点でもあった二之丸御殿が建っていました。

1620(元和6)年に徳川義直が住まいと政庁としての機能を本丸御殿から二之丸御殿へ移し、ここが尾張藩の政治の中心になりました。御殿の造営とともに北側に整備されたとされる二之丸庭園は、文化・文政年間(1804~30)に十代藩主・斉朝によって大きく改造され、回遊式庭園に姿を変えました。この改造により、庭園の規模が東・南東へ拡張され、多くの茶亭が建立されて、色彩豊かな植栽や池・築山などが造営されました。この改造を経て最も隆盛した庭園の様子が「御城御庭絵図」(名古屋市蓬左文庫蔵)に描かれています。



名古屋城総合事務所 所蔵

また、同じく名古屋市内にあり、尾張藩二代藩主光友自らの造営で隠居所である大曾根屋敷に移り住んだことを起源とする徳川園は、当時の広大な敷地において、庭園内の泉水に16挺立の舟を浮かべたと言われています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られましたが、1889(明治22)年からは尾張徳川家の邸宅となりました。

十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた名古屋市が整備改修を行い、翌1932(昭和7)年に「徳川園」が公開されました。池泉回遊式の日本庭園で、江戸時代の主だった大名庭園もこの様式です。清流が滝から溪谷を下り海に見立てた池へと流れるありさまは、日本の自然景観を象徴的に凝縮しています。

高低差の大きな地形や既存の樹林をそのまま利用し、その中に武家社会の豪快さを象徴するような巨石を用いた岩組みが配置されています。

同敷地には尾張徳川家の当主が館長を務める徳川美術館があり、長年受け継がれてきた宝物の数々が展示・公開されるなど、尾張徳川家の伝来品と大名文化の継承がなされています。



(2) 通年型の観光資源

庭園は四季折々の自然美を楽しめるため、通年型の観光資源として活用することができます。

城や街道を訪れる歴史ファンのみならず、美しい景色や写真スポットを求める層に対してアプローチすることが可能となり、桜、新緑、紅葉など、季節ごとに地域イベントとの連携等も図りやすくなります。SNS 映えするスポットとしての展開も期待できます。

(3) 周遊観光の促進

県内には広い地域に庭園が存在するため、庭園を中心とした歴史観光は、周遊観光の促進にもつながります。

「武将ゆかりの地」であることは、庭園だけでなく、自然や食文化、伝統的なものづくりなどとも密接なつながりがあります。

現在、製造業が盛んな地域として知られる愛知県ですが、ものづくり文化のルーツは遠く戦国時代までたどることができます。799年にインドから三河（西尾市）に伝わったとされる木綿は、江戸期に入り「知多木綿」として全国に広がるとともに、後に宿場町としても栄えた「有松絞」の生産につながりました。ポルトガルから伝来した鉄砲と時計は、織田家ゆかりの職人が家康の和時計を修理したこと、尾張・美濃のからくり山車を発展させたといわれています。

また、瀬戸焼は、信長の領土拡大と歩を合わせて広がり、江戸時代には「瀬戸物」という名前が陶器の名称になるほど一般に浸透しました。常滑焼は醸造品や海産物とともに江戸・大坂へ運ばれ、同じく知多で作られた安価な酢を船に積み込み売り込んだ結果、江戸で握り寿司の一大ブームを巻き起こすなど、交通の要衝であったことも愛知の製造業の発達を後押ししました。

庭園を含む各地域の歴史資源とストーリーをつなげることにより、歴史ファンはより深く愛知の歴史への知識を深めることができ、歴史ファン以外は多彩な愛知の観光資源を満喫することができるため、満足度の高い観光となります。

庭園は、さまざまな観光資源をつなぐ「ハブ」として機能し、魅力を発信することで、県内周遊の促進及び経済的な地域振興に寄与します。

「天下一」の職人たち→愛知の「モノづくり」

ポルトガルから運ばれた「鉄砲」「時計」「地球儀」。信長が、それを見た瞬間から愛知の「モノづくり」は始まった。



「モノづくり」の国、愛知へ。



木綿

「木綿」は、799年にインドから三河(西尾市天竹町)に伝わった、と「日本後記」に記されている。その後、江戸期に入り「知多木綿」は全国に広がり、愛知の繊維産業の基盤を築いた。



天竹神社

からくり

「からくり」は、ポルトガルからもたらされた鉄砲と時計から生まれた。織田家ゆかりの津田助左衛門が家康の和時計を修理したことから、尾張藩に仕え、御時計師兼鍛冶頭として尾張・美濃の「からくり山車」を発展させたといわれている。



瀬戸焼

信長が領土を拡大し上洛する頃、瀬戸の陶工たちは美濃の地に移り、後に黄瀬戸や瀬戸黒など、いわゆる桃山陶を生み出した。




木曾ひのき


「木曾ひのき」は戦国時代から江戸時代にかけて、木曾川を使い尾張に運ばれていた。織田信長は安土城に、徳川家康は名古屋城に、木曾ヒノキを使っている。



構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	とくがわえん 徳川園	構成庭園の 所在地	名古屋市東区徳川町 1001
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 2.3ha (約 7,000 坪)</p> <p>【入園料金】 300 円/無料</p> <p>【公開時期】 月曜日 (祝日のときは直後の祝日でない日)・年末年始以外</p> <p>【施設管理者】 名古屋市 (都市公園)</p> <p>【その他】 1932 (昭和 7) 年一般公開 2004 (平成 16) 年再整備の上、開園 登録有形文化財 (徳川園黒門、塀、釣瓶井戸、徳川園脇長屋、蘇山荘)</p> <p>尾張藩二代藩主光友自らの造営で隠居所である大曾根屋敷に移り住んだことを起源とする徳川園は、当時の広大な敷地において、庭園内の泉水に 16 挺立の舟を浮かべたと言われています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られましたが、1889 (明治 22) 年からは尾張徳川家の邸宅となりました。</p> <p>十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた名古屋市が整備改修を行い、翌 1932 (昭和 7) 年に「徳川園」が公開されました。池泉回遊式の日本庭園で、江戸時代の主だった大名庭園もこの様式です。清流が滝から溪谷を下り海に見立てた池へと流れるありさまは、日本の自然景観を象徴的に凝縮しています。</p> <p>高低差の大きな地形や既存の樹林をそのまま利用し、その中に武家社会の豪快さを象徴するような巨石を用いた岩組みが配置されています。</p> 		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・尾張藩二代藩主徳川光友の隠居所大曾根屋敷を起源とした徳川園は、光友没後に尾張藩家老職成瀬、石河、渡邊三家に譲られ、1899 (明治 22) 年からは尾張徳川家の邸宅となった。 ・1931 (昭和 6) 年に、名古屋市が第十九代当主義親より寄付を受け、翌年徳川園として一般公開。 		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	なかむらこうえん 中村公園	構成庭園の 所在地	名古屋市中村区中村町高畑 68
2 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 6.27ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 名古屋市（都市公園） 【その他】 1901（明治34）年開園 （県設置。1923（大正12）年 名古屋市へ移管）</p> <p>園内には、和風の池や流れが整備されており、日本庭園に面した茶室、庭園風に整備された池や流れ、ひょうたん池・太閤池・関白池・ハス池・日吉池があります。一番大きなひょうたん池には、小さな中之島があります。</p> <p>ひょうたん池の北側には茶室のほか、加藤清正没 300 年を記念して愛知県が 1910（明治 43）年に迎賓館として建築し、当時皇太子だった大正天皇が御休憩された建物・中村公園記念館があり、現在も区民憩いの場として親しまれています。</p> 		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊臣家生誕の地として、近隣には豊臣秀吉や加藤清正に関する史跡が点在する地区。 ・秀吉を御祭神として祀る豊國神社、秀吉と加藤清正に関する資料を収集・展示する「名古屋市秀吉清正記念館」があるほか、「豊太閤産湯の井戸」や「お手植えのヒイラギ」がある太閤山常泉寺などもこの地区に集まっている。 		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	なごやじょうにのまるていえん 名古屋城二之丸庭園	構成庭園の 所在地	名古屋市中区本丸1番1号
3 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 30,000 m² 【入園料金】500 円 (名古屋城と共通) 【公開時期】12 月 29 日～31 日、1 月 1 日 (4 日間) 以外 ※催事等により変更あり 【施設管理者】名古屋市 (都市公園) 【その他】1618 (元和 4) 年頃作庭 国指定名勝</p> <p>歴代藩主が公私にわたって過ごした名古屋城二之丸御殿の北側に造られた庭園です。面積は約 3 万 m²に及び、藩主が居住した城内御殿の庭園としては日本一の規模を誇り、19 世紀中葉の庭園を描いたと推定される絵図として、「御城御庭絵図」(名古屋市蓬左文庫蔵)が残されています。</p> <p>明治期、名古屋城が陸軍省の所管になると、二之丸御殿とともに庭園も一部取払われてしまいましたが、幸いにも尾張藩の庭園文化を伝える北御庭は残され、その南側に新たに前庭が整備されました。</p> <p>豪壮な石組みや急峻な地形を表現した北御庭と前庭は、1953 (昭和 28) 年に名勝に指定。その後の発掘調査などにより、江戸時代後期の大規模な大名庭園として非常に価値ある遺構が地下に残されていることがわかり、2018 (平成 30) 年に庭園のほぼ全域が名勝として追加指定されました。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・初代尾張藩主の徳川義直によって整備が始められ、歴代藩主が公私にわたって過ごした二之丸御殿の北側に造られた庭園。 ・面積は約 3 万 m²に及び、藩主が居住した城内御殿の庭園としては日本一の規模を誇る。 		



構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	しりとていえん 白鳥庭園	構成庭園の 所在地	名古屋市熱田区西町 2-5
4 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 3.7ha (11,000 坪) 【入園料金】 300 円 【公開時期】 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、 年末年始以外 【施設管理者】 名古屋市(都市公園) 【その他】 1991(平成3)年開園 東海地方最大級の規模を誇る池泉回遊式日本庭園</p> <p>中部地方の地形をモチーフに、築山を「御嶽山」、そこからの流れを「木曾川」、流れの水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立て、源流から大海までの”水の物語”をテーマにした池泉回遊式日本庭園です。</p> <p>庭園のほぼ中央、流れのほとりに位置する茶室「清羽亭」は、自然素材を生かして、京都の数寄屋大工と尾張大工とが造り上げた本格的な数寄屋建築です。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> 堀川を開削した戦国大名「福島正則」が名古屋城築城のための資材置き場・船置場となる大池を掘ったのが始まりと言われる白鳥貯木場・御船蔵跡に作られた庭園。 中部地方の地形をモチーフに作庭された池泉回遊式日本庭園で、園内に中部地方ゆかりの武将の名前が付いた木橋等がある。 		





構成庭園一覧表

5	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	とよはししふたがわじゆくほんじんしりょうかん 豊橋市二川宿本陣資料館	構成庭園の 所在地	豊橋市二川町字中町 65 番地
	構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 4,580 m² (豊橋市二川宿本陣資料館の敷地面積)</p> <p>【入園料金】 400 円 (2026 年 4 月以降は 500 円)</p> <p>【公開時期】 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、 年末年始以外</p> <p>【施設管理者】 豊橋市</p> <p>【その他】 1981 (昭和 56) 年開園</p> <p>二川宿は東海道 33 番目の宿場であり、江戸時代の建造物「本陣」「旅籠屋」「商家」が現存する全国で唯一の宿場です。</p> <p>豊橋市二川宿本陣資料館では、大名の宿「本陣」と庶民の宿「旅籠屋」が見学でき、江戸時代の交通や旅に関して学べるほか、お殿様が休憩した本陣書院棟から庭園を眺め、江戸時代の情緒を感じることができます。</p>		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二川宿は徳川家康が東海道に宿場を設置した当初からの宿と言われており、本陣は、福岡藩の黒田家や萩藩の毛利家、鹿児島藩の島津家などの西国大名が多く利用した。 ・ 大名や公家など貴人が宿泊した本陣は、旧東海道筋の宿場には 2 か所のみ現存しており、その 1 か所が二川宿本陣。大名が宿泊、休憩に使用した上段の間から枯山水庭園が望める。 		




構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	おくとのじんやほうらい にわ 奥殿陣屋蓬萊の庭	構成庭園の 所在地	岡崎市奥殿町字雑谷下 10 番地
6 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 1,200 m² 【入園料金】無料 【公開時期】毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、 年末年始以外 【施設管理者】岡崎市 【その他】1985(昭和60)年開園 国登録有形文化財</p> <p>大給松平家5代真乗の子・真次が奥殿松平家初代としてこの地を統治したことに端を発し、その後、乗真(初代藩主)が1711(正徳元年)年に奥殿に陣屋を移して奥殿藩が誕生したことが奥殿陣屋の始まりです。</p> <p>蓬萊の庭は、古図にある池庭をモデルに、江戸初期の作風を生かした日本庭園として復元しました。築山全体を杉苔でおおい、美しさを醸し出しています。庭園中央付近にある北山杉はきれいに剪定がされています。春のツツジ、夏の新緑、秋の紅葉、雪景色の日本庭園と四季を通じてお楽しみいただけます。紅葉は奥殿陣屋の名物となっています。</p> <p>池も二段式となっており、上段の池には石橋がかかっており風景に溶け込んでいます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> 徳川秀忠に仕え、大坂の陣の戦功により3千石を与えられた松平真次が大給(豊田市)に陣屋を構えたことから奥殿松平家は始まった。 1863(文久3)年に信濃国佐久郡田野口村(長野県佐久市)に藩庁を移すまで、奥殿陣屋は奥殿藩の中心となった。 		


構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	きゅうはやし していえん 旧林氏庭園	構成庭園の 所在地	一宮市起字下町 211 番地
7 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】1,157.02 m² 【入園料金】無料 【公開時期】毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、 年末年始以外 【施設管理者】一宮市 【その他】1983(昭和58)年開園 国登録有形文化財(旧林家住宅:美濃路起宿脇本陣跡) 国登録記念物(旧林氏庭園)</p> <p>旧林氏庭園は美濃路の宿場町起宿脇本陣の最後の主であった林英太郎の子、幸一によって昭和初期に約10年の歳月を費やして作庭され、2019(令和元)年10月に国登録記念物に登録されました。</p> <p>庭園内には鞍馬石、加茂石、那智黒石、富士石など各地より集められたさまざまな石材が用いられおり、石の美しさと石組みの技術を堪能することができます。</p> <p>また、春にはドウダンツツジ、夏には樹木の青葉や苔、秋にはモミジの紅葉、冬には雪景色など、四季折々の風情が楽しめる庭園です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> 旧林氏庭園を造園した旧林家は、江戸時代、東海道と中山道を結ぶ往還「美濃路」起宿の脇本陣家である。林家の祖先は、織田信長の家老林通勝の一族とされる。 美濃路は、江戸と領国を往来する各地の大名、将軍吉宗に謁見するために現在のベトナムから来た象、長州征伐に向かう徳川家茂の軍勢など、江戸時代には多くの往来があり、脇本陣林家も重要な役割を担っていた。 		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	うつつじんじゃ 内々神社	構成庭園の 所在地	春日井市内津町 24
8 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 4,255.54 m² 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 内々神社 【その他】 開園年不詳 県指定文化財（内々神社庭園）</p> <p>内々神社は、日本武尊の伝説と深い関係があり『延喜式神名帳』にも記載されている由緒ある神社です。また、昔から武将の尊崇が厚く、豊臣秀吉の朝鮮役にも戦勝を祈願して、この社頭から軍船用の帆柱を伐り出したといわれています。</p> <p>内々神社庭園は、南北朝時代の名僧・夢窓疎石^{むそうそせき}が作庭したといわれる回遊式林泉型庭園。池を中心に園路を散策しながら景色を楽しむのがこの庭園の醍醐味です。裏山の景色を借景として取り入れ、自然石が巧みに配置されています。</p> 		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>・戦神(※)のご利益にあやかるため、豊臣秀吉が朝鮮出兵時に戦勝を祈願し、御神木を軍船の帆柱として伐り出し、後に御神木のお礼代をもとに内々神社の社殿が立てられる。</p> <p>※ 戦神(妙見さん)：神仏習合の思想により内々神社境内に開かれた内津妙見寺。その寺に祭られた妙見大菩薩の御神体は北斗七星。古くから「勝利をもたらす星」として信仰され武将の崇拝が熱い。</p>		


構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	たいせいじ 太清寺	構成庭園の 所在地	春日井市勝川町 2-14-3
9 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 3,305 m² 【入園料金】無料 【公開時期】通年 【施設管理者】太清寺 【その他】1979 (昭和 54) 年開園</p> <p>臨済宗妙心寺派の寺院。かつては醍醐山龍源寺と呼ばれ、徳川家康の逸話が伝えられていることで知られます。</p> <p>1584 (天正 12) 年の小牧・長久手の戦いで、徳川家康が小牧山から長久手に向かう折、当地の阿弥陀堂で休憩し、その後勝川を渡り戦場に向かった家康は、秀吉軍との戦いに見事勝利しました。</p> <p>勝利を収めた際に身に付けていた具足は大変縁起の良い「勝川の具足」として、江戸城にて丁重に扱われたそうです。</p> 		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・1584 (天正 12) 年の小牧・長久手の戦いで、徳川家康が小牧山から長久手に向かう折、当地の阿弥陀堂で休憩したと伝えられている。 		


構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	じょうざんえん 丈山苑	構成庭園の 所在地	安城市和泉町中本郷 180 - 1
10	構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】9,100 m² 【入園料金】100 円 【公開時期】毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は営業)、 年末年始以外 【施設管理者】安城市 【その他】1996(平成8)年開苑</p> <p>江戸時代初期に徳川家康の近習を勤め、晩年には文人として活躍した石川丈山が京都一乗寺に終の栖として建てた詩仙堂。丈山苑は、そのイメージを生誕の地・安城市和泉町に再現し「丈山の世界」を伝えるための空間として、1996(平成8)年5月に開苑しました。</p> <p>庭園は、丈山が作庭した詩仙堂、東本願寺<small>しょうせいえん きこくてい</small>渉成園枳殻邸、田辺の<small>しゅうおん</small>酬恩庵の三庭園をイメージし、唐様庭園・回遊式池泉庭園・蓬萊庭園を組み合わせた本格的な庭園です。四季折々の風を感じながら苑内にたたずみ、ゆったりと一服の茶を味わうとき、悠々自適に生きた丈山からの現代へのメッセージを感じることができます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
	計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>・江戸時代初期に徳川家康の近習として活躍した石川丈山が、終の栖として京都一条寺に建てた『詩仙堂』のイメージを、生誕地である安城市和泉町に再現した。</p>		

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	けぞうじ 華蔵寺	構成庭園の 所在地	西尾市吉良町岡山山王山 59
11	構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 700 m² 【入園料金】志納金 200 円 【公開時期】通年 【施設管理者】華蔵寺 【その他】1600（慶長 5）年開園 県指定文化財（吉良義央公の木像） 市指定史跡（華蔵寺吉良家墓所）</p> <p>忠臣蔵で有名な吉良上野介義央公<small>きら こうずけのすけよしひさ</small>の曾祖父である吉良義定が旗本として吉良家を再興した際に、父義安の菩提を弔うために 1600（慶長 5）年に創建した寺院。吉良家墓所には、代々の墓が建ち並び、毎年、吉良公の命日である 12 月 14 日には毎歳忌法要<small>まいさいぎ</small>が行われ、たくさんの参拝客が訪れています。</p> <p>庭園は本堂の裏に位置し、美しい苔池を設けた小堀遠州好みの枯山水庭園となっており、本堂、書院、茶室など、様々な角度から庭園を楽しむことができます。</p> 		
	計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> 忠臣蔵で有名な吉良上野介義央公の曾祖父である吉良義定が旗本として吉良家を再興した際に、父義安の菩提を弔うために 1600（慶長 5）年に創建した寺院。 		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	にしおしれきしこうえん 西尾市歴史公園 きゅうこのえてい しょうこそう (旧近衛邸・尚古荘)	構成庭園の 所在地	西尾市錦城町 231-1
12 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】12,819 m² (公園全体) 【入園料金】無料 【公開時期】通年 ※旧近衛邸・尚古荘は、祝日を除く月曜日、年末年始以外 【施設管理者】西尾市 【その他】1996 (平成8) 開園</p> <p>西尾市歴史公園は、西尾のシンボル「西尾城」の一部を復元し、新たな歴史文化の発信地としたものです。</p> <p>酒井正親・重忠や田中吉政が城主を務めた西尾城のある歴史公園内に、公家近衛家の邸宅の一部を京都から移築した「旧近衛邸」と、西尾城の遺構を活用して庭園設計された「尚古荘」が整備されています。旧近衛邸では、西尾城本丸丑寅櫓をバックに枯山水の庭園を眺めながら縁側で抹茶を楽しむことができます。尚古荘は、この地方では珍しい京風庭園で、西尾城東之丸の遺構を生かして作庭されています。</p> 		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・西尾城は、承久の乱 (1221 年) の戦功により三河国守護に任じられた足利義氏が築城した西条城が始まりとされ、1585 (天正 13) 年、家康の命により城が築かれたことが近世の西尾城の基礎となる。 ・1601 (慶長 6) 年に本多康俊が西尾二万石の藩主として入城し、その後、城主は譜代大名の間で次々と代わり、1764 (明和元) 年に山形藩から大給松平氏が入城した後、六万石の西尾藩となる。松平氏は代々老中などの幕府の要職を務め、廃藩となるまで5代続いた。 ・旧近衛邸は、島津家によって江戸後期に建てられた茶室が京から移築されたもの。 		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	にほんていえん うらくえん 日本庭園 有楽苑	構成庭園の 所在地	犬山市犬山御門先1番地
13 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 13,000 m²</p> <p>【入園料金】1,200 円 (2026 年 3 月以降は 1,500 円)</p> <p>【公開時期】毎週水曜日、年末年始、メンテナンス日以外</p> <p>【施設管理者】名古屋鉄道株式会社</p> <p>【その他】1972 (昭和 47) 年開園 国宝 (茶室「<small>じょあん</small>如庵」) 重要文化財 (旧正伝院書院)</p> <p>昭和を代表する建築家・堀口捨己<small>ほりぐちすてみ</small>氏の監修によって築造された日本庭園。</p> <p>「如庵」は、織田信長の弟であり茶の湯の創成期に尾張の国が生んだ大宗匠・織田有楽斎<small>うらくさい</small>が京都の建仁寺に創建した茶室です。1936 (昭和 11) 年に旧国宝 (のちに現行の国宝) の指定をうけた茶道文化史上貴重な遺構で、京都山崎妙喜庵内の待庵、大徳寺龍光院内の密庵とともに、現存する国宝茶席三名席の一つとなっています。</p> <p>波瀾に富んだ人生を送った有楽の生涯を写すがごとく、茶室「如庵」は各地を転々としましたが、1972 (昭和 47) 年に名古屋鉄道により犬山城の東へ移築され、如庵が京都にあった時代の庭園を可能な限り再現した「日本庭園 有楽苑」として整備されました。</p> <p>その他、重要文化財「旧正伝院書院」、古図に基づいて復元した「<small>げんあん</small>元庵」、有楽苑での茶会のために建てられた「<small>こうあん</small>弘庵」があり、四季折々の庭園を楽しめます。</p>		
計画のテーマでの位置づけ (※3)	<p>・「如庵」は、織田信長の弟であり茶の湯の創成期に尾張の国が生んだ大宗匠・織田有楽斎が京都の建仁寺に創建した茶室で、国宝の指定をうけた茶道文化史上貴重な遺構。</p>		



構成庭園一覧表

14	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	きよすじょう 清洲城	構成庭園の 所在地	清須市朝日城屋敷1番地1
構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】6,002.34 m² (清洲城関連施設含む) 【入園料金】400 円 【公開時期】毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、年末年始以外。ただし、桜の花見期間は開館 【施設管理者】清須市 【その他】1989 (平成元) 年開園 清洲城天主閣 (1989 年に再建) に隣接した庭園</p> <p>1555 (弘治元) 年に織田信長が那古野城から入城、1560 (永禄3) 年桶狭間の戦いに勝利し、ここ清須から天下統一への第一歩を踏み出した城です。現在の清洲城天主閣は 1989 (平成元) 年に再建され、清須の歴史を紹介する展示・映像などご覧いただけます。</p> <p>清洲城周辺では五条川堤防や清洲公園の桜をはじめ四季折々の散策に多くの方が訪れる観光スポットです。</p>			
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信長が 1560 (永禄3) 年に清洲城から出陣し、桶狭間の戦いにて今川義元を撃ち破った出世城。 ・織田信長没後の 1582 (天正 10) 年には、信長の後継者と所領の処分を議す清須会議が行われた。 			

その他計画の実施にあたって必要な事項

愛知県では、県、市町村、観光関係団体等で構成する「あいちの歴史観光推進協議会」として、「城」「武将」「街道」に関する豊富な観光資源を活用し、歴史観光を推進しています。今後は本計画における構成庭園と各地の観光資源を組み合わせることにより、本県における周遊観光を一層促していきます。

現在ものづくり産業が盛んなことで知られる愛知県ですが、戦国時代が終わり平和な時代が訪れると、からくりや山車の製作などを支えるものづくり技術が発展しました。食の分野においても、蔵人による醸造技術が和食の発展に寄与したことに加え、現代の「なごやめし」につながっているなど、歴史をたどることは今の愛知をより深く知ることにつながります。

<地区別>

① 尾張地区

尾張は肥沃な濃尾平野に位置し、木曾川・長良川などの水系を利用した農業が発達し、経済力が武士勢力の基盤となりました。戦国時代、尾張国の政治・軍事の中心であった清須は、織田信長が青年期に本拠とした城下町で、桶狭間の戦い(1560年)もここから出陣しました。

また、国宝犬山城のほか、織田信長が初めて築いた城であり、信長の後継者争いである小牧・長久手の合戦で徳川家康が本陣を敷いた小牧山城、本能寺の変後には「清須会議」が開かれ、信長後継問題を決定する舞台となった清洲城も広く知られています。

1537(天文6)年に築城された犬山城の城下町は、からくり文化の発信基地でもあります。「茶運び人形」の実物が見られるほか、犬山祭の車山に載っていた山車からくり人形も間近で眺められます。また、展示だけではなく、毎日からくり人形の実演解説を行っており、古くから続く「ものづくり愛知」のルーツを感じることができます。

1610(慶長15)年、徳川家康は清須城下を名古屋へ移転する「清須越」を開始。武家・町人・寺社を含む大規模な都市移転で、名古屋城下町が誕生しました。

清須越のために、清須の町は一時廃れましたが、東海道と中山道を結ぶ美濃路が整備され新たに宿場が置かれると、町は再びにぎわいを取り戻しました。

美濃路は、東海道の熱田宿と中山道の垂井宿を結んだ東海道の脇街道です。陸路のた

犬山城(犬山市)



からくり人形
(IMASEN 犬山からくりミュージアム
玉屋庄兵衛工房)



め、将軍の上洛に、朝鮮通信使や琉球使節の貴人、そして将軍家へ献上された象も運ばれました。大河川が多かったこの地域において、尾張と美濃の国境を流れる木曾川（起川）では渡船による通行が行われており、渡船場のある起宿は水陸交通の拠点としてにぎわい、明治以降も織物の町として栄えました。

長久手古戦場公園（長久手市）



小牧山城（小牧市）



起宿（一宮市）



清須宿（清須市）



また、名古屋から東約 20km には、やきものの産地・瀬戸市があります。1,000 万年以上前に堆積したといわれる瀬戸の陶土層から産出される粘土は質が良いことで世界的に知られており、市内には今も多く窯元や工房が集まっています。

古来の陶磁器窯のうち、中世から現在まで生産が続く代表的な 6 つの窯の総称を「日本六古窯」といい、日本遺産にも認定されていますが、瀬戸は、常滑、信楽、丹波、備前、越前とともに、この一つに数えられています。

1574（天正 2）年には、織田信長が瀬戸焼産業を保護・振興するため、尾張領国中、瀬戸以外に陶窯を築くことを禁ずる「禁窯令」が出された歴史もあります。

現在、瀬戸市中心部の「瀬戸蔵ミュージアム」では、平安時代から平成に至るまでの瀬戸焼の歴史や工場の再現、大量輸送を行っていた鉄道の展示など、瀬戸焼と歩んできたまちの変遷を今に伝えています。

瀬戸蔵ミュージアム



② 名古屋地区

現代の愛知の中心地・名古屋は、三英傑である、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という日本史を動かした武将が深く関わった地域です。

織田信長ゆかりの地としては、1538（天文7）年頃、父・信秀が今川氏から奪い取り、後に信長が城主となった那古野城があり、現在の名古屋城二之丸付近にその碑を訪れることができます。現在の名古屋市から豊明市にかけての地域は、1560（永禄3）年、信長が激戦の末に今川義元を破った「桶狭間の戦い」の地であり、現地を散策すると当時の戦場の広さや地形などを感じることができます。

那古野城（中区）



桶狭間古戦場公園（緑区）



豊臣秀吉生誕の地として知られる名古屋中村には、秀吉が生まれたと伝えられる太閤山常泉寺や、秀吉を御祭神として祀る豊國神社が1885（明治18）年に創建されるなど、豊臣ゆかりの地がいくつも残されています。

豊國神社（中村区）



太閤山 常泉寺（中村区）



名古屋を象徴する名古屋城は、1610（慶長15）年に徳川家康が西国・北国の大名を動員して公儀普請により築城が始まった巨大城郭で、金鯱を戴く天守は尾張徳川家の権威を象徴しました。

また、同年から始まる「清須越」と同時に作られた新しい城下町は、碁盤割上に都市計画が行われ、現在の名古屋市街の原型となりました。

尾張徳川家は御三家筆頭として最高の家格を持ち、名古屋を拠点に豊かな文化を育み、第七代藩主徳川宗春の時代には、質素儉約令に反して積極的な開放政策をとったことで尾張文化が華やぎました。

1935（昭和10）年に名古屋に開館し、尾張徳川家の当主が館長を務める徳川美術館で

は、尾張徳川家代々の遺愛品をはじめ、信長・秀吉ら天下人ゆかりの所蔵品や国宝・重要文化財に指定されている刀剣などが現代まで伝わり、御三家筆頭の尾張徳川家に受け継がれてきた宝物の数々が所蔵・公開されています。

名古屋城（中区）



徳川美術館（東区）



名古屋は、東海道に近く、熱田湊は伊勢湾に面し桑名宿との間を結ぶ「七里の渡し」という海路があるなど、交通・物流の要衝でした。

熱田宿は、江戸日本橋から数えて41番目の宿場町で、熱田神宮の門前町でもあったことから「宮宿」とも呼ばれました。熱田宿は名古屋城下へ至る美濃路の分岐点であり、桑名まで海路七里の日和待ちの大名や旅人が宿泊したため、東海道随一の規模を誇りました。1843（天保14）年の記録では、本陣2軒、脇本陣1軒、旅籠248軒のほか、尾張藩の浜御殿や奉行所などが立ち並びました。現在、かつての船着場跡に常夜燈が復元され、戦火を免れた旅籠屋建物が往時の名残をとどめています。

熱田神宮（熱田区）



熱田宿（熱田区）



東海道を往来する旅人の土産物として考案された絞り染め「有松絞り」は、遠く江戸まで知れ渡り、街道筋の名産品へと発展しました。池鯉鮒宿と鳴海宿との間に設けられた有松には、有松絞りで財を築いた絞商たちの繁栄が町並みに印されており、全国で唯一の「染織町」として重要伝統的建造物群保存地区に選ばれ、2019（令和元）年には日本遺産に認定されています。

東海道40番目となる鳴海宿は、古来は干潟が広がる景勝地で鳴海丘陵には桶狭間の戦いにまつわる城や砦などが築かれていましたが、東海道の道筋が定まり宿が置かれて以降、有松と同じく絞りの生産・販売を行いました。現在も、江戸時代から残る東西の常夜燈と数多くの社寺が往時と変わらず存在しています。

有松のまちなみ（緑区）



鳴海宿（緑区）



信長・秀吉・家康の三英傑にちなんだエピソードは、食においても見られます。信長は濃い口を好み南蛮渡来の食にも興味を示し、金平糖や南蛮菓子も好んで食しました。秀吉は故郷・中村のごぼうや大根をこよなく愛し、天下人になってからも取り寄せて食べていました。家康は健康に関心が高く食に精通し、自ら薬草も栽培。麦めし、豆味噌を中心とした粗食に徹し、当時としては非常に長寿な75歳まで生きた、とされています。

現在、なごやめしとして有名な、ひつまぶし・味噌煮込みうどん・味噌おでんなどを始めとした和食の数々は、豆味噌文化の一つとして、戦国の世から現代まで続く食の名物です。豆味噌は、戦国時代、貴重なスタミナ源として陣中食とされ、愛知の侍たちの活躍を支えました。

味噌煮込みうどん



味噌をつけて焼いた握り飯



(画像：なごやめし普及促進協議会公式HPより)

③ 知多地区

知多半島は、西は伊勢湾、東は知多湾・三河湾に挟まれており、常滑焼・醸造品・海産物を輸送し、都の文化を持ち帰るなど、伊勢・堺・京都と交流を行っていました。知多四国八十八ヶ所霊場が点在するほか、後に徳川家康を産むこととなる娘・於大^{おだい}の方の生誕地や、ゆかりのお寺があるなど、徳川家との接点も多いエリアです。

1560（永禄3）年、桶狭間の戦いに向かう家康（当時は元康）がこの地を訪ね、織田方の坂部城主・久松俊勝と再婚していた母・於大と再会したエピソードが残るほか、半田市の天龍山常楽寺には、桶狭間の戦いの後や本能寺の変後の伊賀越えの際に、立ち寄ったとされる話も残されています。

坂部城（知多郡阿久比町）



天龍山常楽寺（半田市）



また、知多半島西部にある常滑は、瀬戸と同じく「六古窯」の一つであり、古来から日本有数のやきものの産地です。1585（天正13）年、兄秀吉によって大和・和泉・紀伊の三か国を与えられ、大和郡山に入部した豊臣秀長は、秀吉とともに茶の湯に通じ、常滑から陶工の与九郎を招いて大和赤膚山（現在の奈良市五条山）の陶土で茶器を焼かせ、これが現在も奈良県で焼かれている赤膚焼のはじまりとされています。

土管坂（常滑市）



時代が下り、太平の世が訪れた江戸時代、江戸で巻き起こった握りずしブームに貢献したのが、半田で生まれた「粕酢」です。当時高価だった酢を、酒造りから生まれる酒粕を用いて安価に製造し、江戸に出荷することで、現代の握りずしにつながる早ずしがブームになったと伝えられます。現在国内外で人気の寿司は、この地で生まれた醸造文化がその発展に大きく貢献しました。

たまりの汲みかけ（武豊町）



また、豆味噌の醸造過程でできた「たまり」（醤油）は、あいちの特産品です。

④ 西三河地区

西三河は三河武士の拠点であり、ふるさとです。この地域には、松平・徳川のゆかりの史跡・名所が数多く残っています。

松平元康（家康）は、桶狭間での敗戦後岡崎へ帰還し、ようやく人質生活から解放され岡崎城主として独立します。以来、遠江、駿河、信濃、甲斐と領土を拡大。「本能寺の変」後、豊臣秀吉の天下となり、江戸への転封を命ぜられます。

岡崎城は、家康が生まれた神君出生の城。1575（天正3）年の長篠・設楽原の戦いでは、奥平家家臣の鳥居強右衛門が救援を求めて来城し、それに応じた家康公が長篠城救

援のために出陣しました。

岡崎城近郊の徳川家ゆかりのスポットとしては、他に大樹寺、伊賀八幡宮なども挙げることができます。大樹寺は、松平家・徳川将軍家の菩提寺で、桶狭間の敗戦後、若き家康が住職から諭され自害を思いとどまったと伝わり、歴代将軍の等身大の位牌が安置されています。伊賀八幡宮は、家康が大きな合戦の時には必ず参詣したと言われ、徳川家の武運長久・子孫繁栄の守護神とされました。

岡崎城（岡崎市）



伊賀八幡宮（岡崎市）



大樹寺（岡崎市）



松平東照宮（豊田市）



また、現在の豊田市は、家康の祖先・松平氏の発祥の地であり、かつて松平氏の館跡地に創建された松平東照宮には、当時の堀や石垣のほか男子誕生の際に使われたという産湯の井戸も残っています。

安城市には、安祥城址や家康の近習として活躍した石川丈山ゆかりの丈山苑、若き家康（当時は松平元康）が本願寺教団の門徒と争った三河一向一揆の拠点・雲龍山本證寺が残されています。

安祥城址（安城城跡）（安城市）



本證寺（安城市）



他にも西三河には、「忠臣蔵」の仇役で有名な吉良上野介義央きら こうずけのすけよしひさの領地・現在の西尾市吉良町があり、今も義央は、地元では数々の善政を敷いた名君として愛されています。

西尾市内の華蔵寺は吉良家の菩提寺であり、毎年12月14日の吉良公の命日には毎歳忌法要が行われています。

華蔵寺（西尾市）



社会経済が安定して以降、愛知では新田開発が盛んになり、コメの収量が増え酒造が発展しました。長期熟成を要する豆味噌文化が普及し、岡崎城から西へ八丁（約870m）の距離にある岡崎市八丁町で製造された豆味噌は「八丁味噌」として、今や国内外で愛される調味料となりました。



また、愛知の蔵人たちは、酒造の副産物である酒粕から前述の粕酢やみりんを生み出しました。碧南市で作られる「三河みりん」は、もち米のリキュールとも称され、世界の一流料理人からも注目される、愛知が誇る発酵調味料です。市内では、この三河みりんを使った料理やスイーツを提供する店もあります。

⑤ 東三河地区

東三河は、戦国の雄である今川・武田・松平に挟まれ、幾度となく争奪戦の舞台となり、三河武士が名をあげたゆかりの地が数多くあります。

長篠・設楽原の戦いの最終決戦地・設楽原は、史跡の宝庫であり、設楽原歴史資料館、古戦場跡地には復元された馬防柵、家康の本陣跡地や物見塚などが点在します。

また、北東部の奥三河では、絶えず大国の脅威にさらされた奥平氏（亀山城）、菅沼氏（長篠城）、菅沼氏（田峯城）が互いに結束し、山家三方衆と呼ばれました。

設楽原古戦場（新城市）



亀山城（新城市）



長篠城址（新城市）



田峯城（北設楽郡設楽町）



現在の豊橋市には、家康の三河統一によって四天王筆頭の酒井忠次が城主を務めた吉田城があり、今なお石垣や土塁が数多く残っています。石垣の中には名古屋城築城の際に残った石材が転用され、さまざまな印が刻まれた石を確認することもできます。

また、吉田城が発祥の地とされているのが手筒花火です。450年以上の歴史があり、揚げ手が花火の筒を抱えるように持ち巨大な火柱を噴出、最後に「ハネ」と呼ばれる炎が噴き出す勇壮な煙火です。その原型は「のろし」とであると伝えられています。観賞用の花火は、江戸・元禄期以降に庶民へ広まったといわれ、この地域が盛んになったのは、家康が三河衆に火薬の製造を任せたことが花火の発展につながったとされています。

吉田城址（豊橋市）



手筒花火



豊橋市は、街道宿場町でもありました。現在の市の中心部は、江戸時代は吉田藩の城下町・東海道の宿場町、さらに豊川の舟運や伊勢詣での船旅の湊町としてもにぎわいました。

戦災や戦後復興のため当時の景観は失われ、町名や拡幅された道筋に名残を残すのみとなっていますが、隣接する二川宿では、現在でも江戸時代の町割りがほぼ残っています。東海道で2か所しか現存しない本陣、庶民の宿であった旅籠、さらに宿村役人の店舗兼住居（商家）が公開されています。また、歴史的なまち並みに調和するような工夫により、切妻平入の軒が並ぶ宿場町らしい景観を見ることができます。

二川宿（豊橋市）

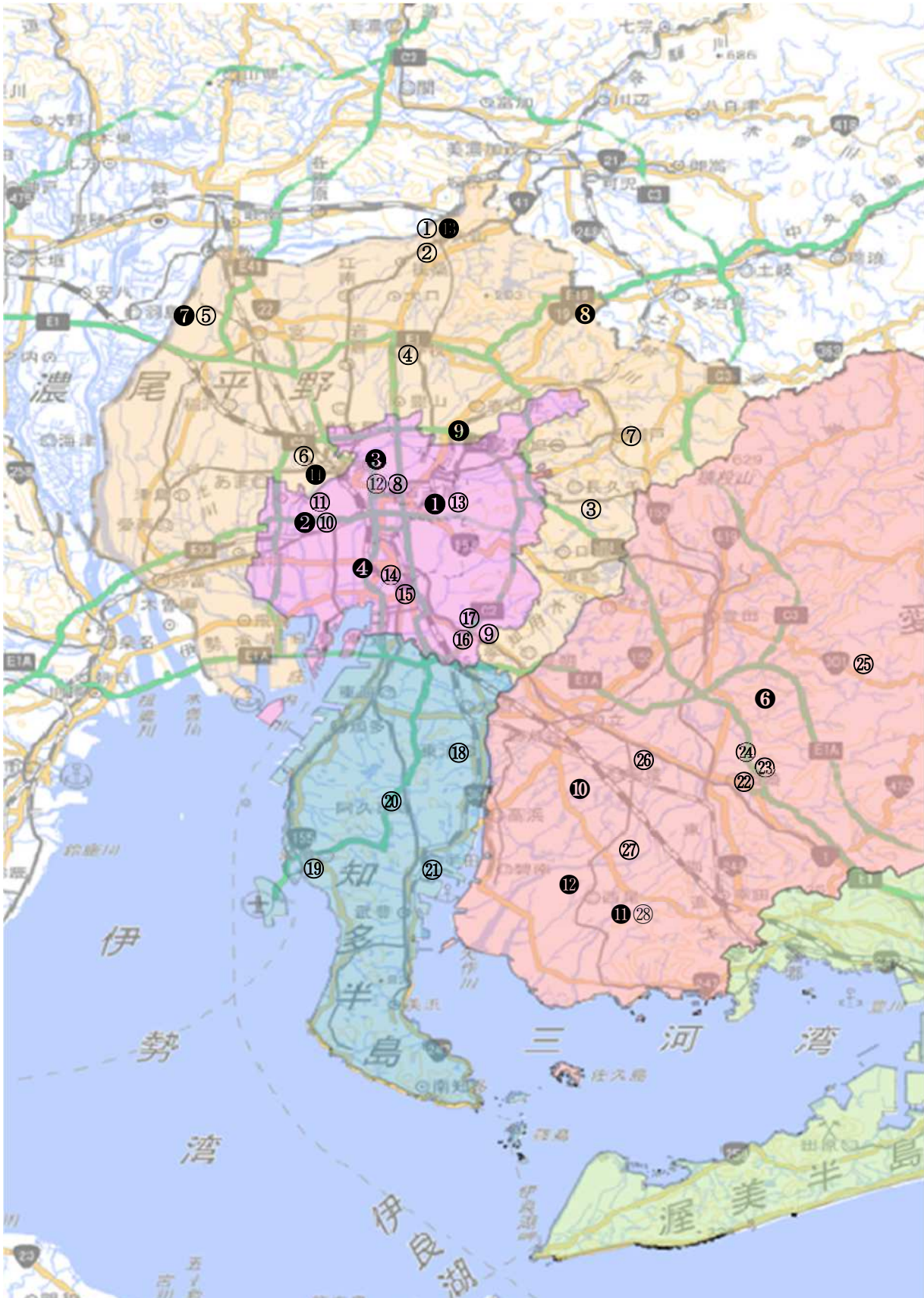


豊川市には、日本三大稲荷のひとつに数えられ、商売繁盛のご利益で全国的に知られる豊川稲荷があります。曹洞宗の寺院で正式には「妙巖寺」といい、室町時代に創建されて以来、信長・秀吉・家康ら戦国武将や、渡辺崋山など文人からの信仰も集めてきました。江戸時代には庶民の間で商売繁盛や家内安全、福德開運の善神として全国に信仰が広がり、現在も年間およそ500万人もの参拝客が訪れます。

門前町には、飲食店やみやげ店などが並んでいますが、中でも地元グルメ「豊川いなり寿司」は必食です。お供えしてあった油揚げにご飯を詰めたことがはじまりといわれていますが、今では通常のいなり寿司に加え、味噌カツやうなぎなど多彩なトッピングを組み合わせた創作いなり寿司など、豊富なバリエーションで展開されています。

霊狐塚（豊川稲荷）





- | | | | |
|---------------|------------|-------------|-----------|
| ① 徳川園 | ② 中村公園 | ③ 名古屋城二之丸庭園 | ④ 白鳥庭園 |
| ⑤ 豊橋市二川宿本陣資料館 | ⑥ 奥殿陣屋蓬莱の庭 | ⑦ 旧林氏庭園 | ⑧ 内々神社 |
| ⑨ 太清寺 | ⑩ 丈山苑 | ⑪ 華蔵寺 | ⑫ 西尾市歴史公園 |
| ⑬ 日本庭園有楽苑 | ⑭ 清洲城 | | |

愛知県内の歴史観光資源（一例）

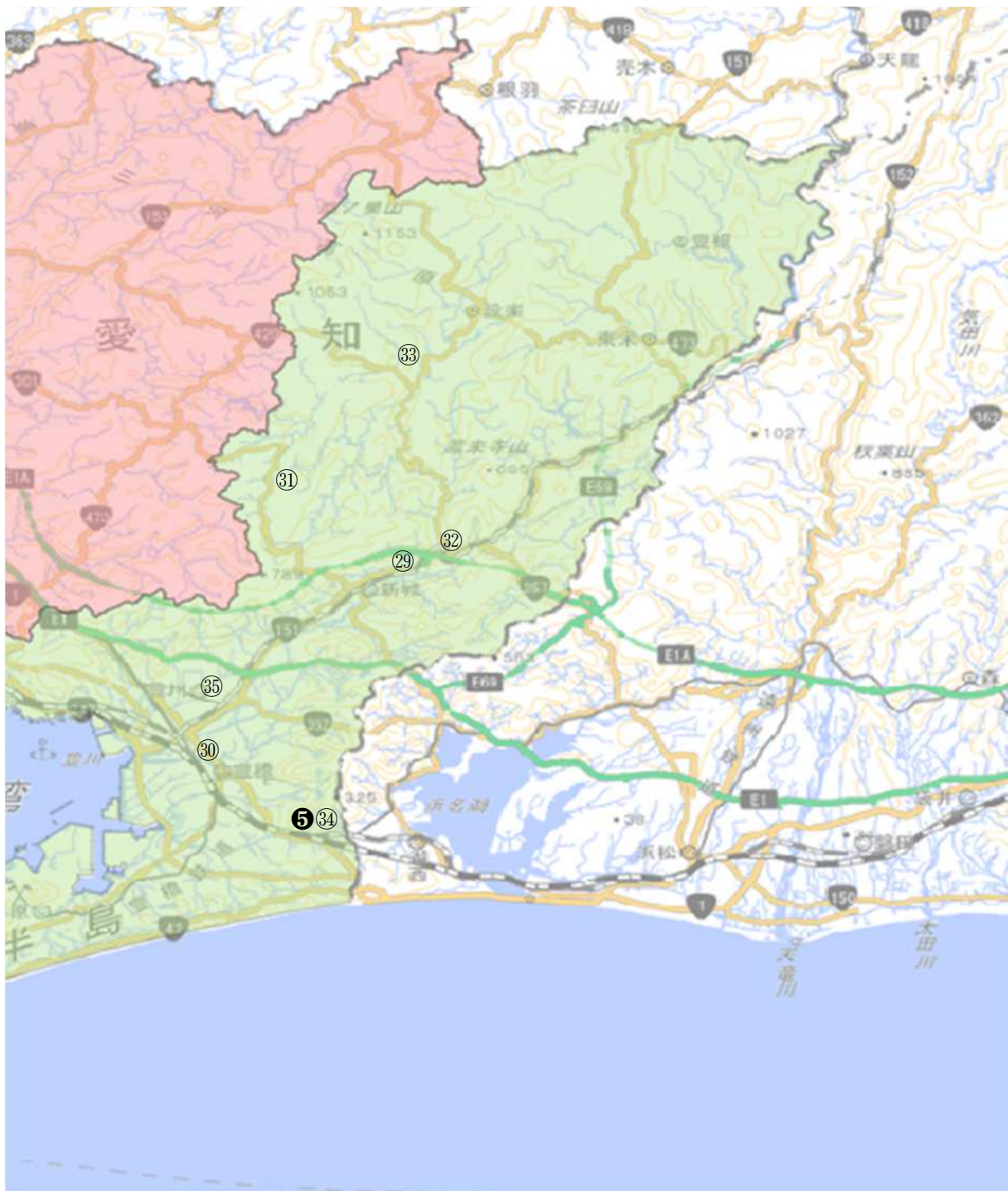
【尾張】①犬山城 ②IMASEN 犬山からくりミュージアム ③長久手古戦場 ④小牧山城
⑤起宿 ⑥清須宿 ⑦瀬戸蔵ミュージアム

【名古屋】⑧那古野城 ⑨桶狭間古戦場公園 ⑩豊國神社 ⑪太閤山常泉寺 ⑫名古屋城
⑬徳川美術館 ⑭熱田神宮 ⑮熱田宿 ⑯有松のまちなみ ⑰鳴海宿

【知多】⑱緒川城跡 ⑲土管坂 ⑳坂部城 ㉑天龍山常楽寺

【西三河】㉒岡崎城 ㉓伊賀八幡宮 ㉔大樹寺 ㉕松平東照宮 ㉖安祥城址 ㉗本證寺 ㉘華蔵寺

【東三河】㉙設楽原古戦場 ㉚吉田城址 ㉛亀山城 ㉜長篠城址 ㉝田峯城 ㉞二川宿
㉟豊川稻荷



実施する事業と実施体制

(1) これまでの取組

2023 年度

「あいちの歴史観光推進協議会」設立 ※詳細は「(3) 協議会の構成員」のとおり

2024 年度

協議会として、「武将」「城」「街道」のテーマを掛け合わせ、歴史観光として、オール愛知で観光誘客や周遊観光の促進を図る取組を実施。

2025 年度

2024 年度の事業に加え、庭園に着目した新規事業として「愛知サムライガーデンフォトコンテスト 2025」を開催

期間：2025 年 9 月 30 日（火）から 2025 年 12 月 26 日（金）まで

内容：武将等にゆかりのある庭園を訪れて撮影した写真を募集し、部門ごとに選出された受賞者へ景品を贈呈する。

(2) 今後の取組

2026～2030 年度（予定）**① サムライガーデンの情報発信**

- (1) Web サイトを通じた情報発信
- (2) 観光展等を通じた情報発信

② サムライガーデンを活用した観光コンテンツの造成

庭園を活用した観光コンテンツの造成、及び特設サイトを通じた販売支援

③ サムライガーデンを活用した県内周遊促進策の実施

- (1) 参画庭園を巡るイベントの開催
- (2) 庭園を含むモデルコースの提案
- (3) 歴史観光スタンプラリーの実施
- (4) 歴史ファン層向け周遊ドライブマップへの庭園の掲載

④ サムライガーデンを活用したインバウンド誘客の促進

- (1) Web サイト等を通じた情報発信
- (2) 観光コンテンツの販売支援

⑤ 観光関連事業者との連携

観光関連事業者による庭園を活用した事業の PR

(3) 協議会の構成員

あいちの歴史観光推進協議会

設 立：2024年2月16日

目 的：愛知県の「武将」「お城」「街道」等の歴史にまつわる観光資源の創出・磨上げを行うとともに、全国への情報発信による誘客促進・周遊促進を図り、観光振興による地域の活性化を図る。

顧 問：愛知県知事

会 長：愛知県観光コンベンション局長

事務局：愛知県観光コンベンション局観光振興課

構 成：109団体（県、市町村、観光関係団体、経済関係団体※、民間企業等※）

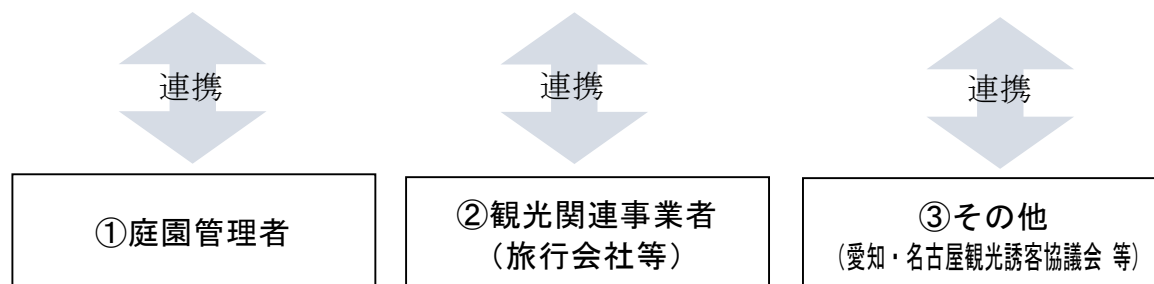
※オブザーバー

経済関係団体：愛知県商工会議所連合会、愛知県商工会連合会

民間企業等：NHK名古屋放送局、JR東海、名古屋鉄道、愛知環状鉄道、愛知高速交通、中部国際空港、あいち観光ボランティアガイドの会

(4) 事業の実施体制

【実施主体】 あいちの歴史観光推進協議会



- ① 本計画では、10～23 ページに記載の「構成庭園」との連携を想定しているが、個別の事業内容を踏まえて、一部の構成庭園と連携する場合や、構成庭園以外の庭園も含めて連携する場合がある。
- ② 民間企業など協議会構成員以外においても、ガーデンツーリズムに関する事業は実施されているため、相互PRを始めとした連携活動を行う。
- ③ 歴史観光以外の事業において、PR等の連携を行う。


(5) 具体的な事業

様式1-9のとおり

具体的な事業一覧表

事業名①	サムライガーデンの情報発信		
実施主体	あいちの歴史観光推進協議会	事業期間	2026 年度 ~ 2030 年度
実施施設	参画庭園ほか県内庭園		
事業概要	<p>(1) Webサイトを通じた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 「武将」「お城」「街道」の3つを軸に、愛知の歴史観光に関連する様々な情報を紹介する協議会ポータルサイト「あいち歴史観光」において、県内の歴史観光スポットの一つとして、新たに「武将や街道等にゆかりのある庭園（サムライガーデン）」を紹介することで、地域における歴史と共に文化や自然を楽しむ観光を提案する。  <p>(2) 観光展等を通じた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史観光をテーマにした観光展の開催や、イベントへのブース出展等の際に、愛知の歴史観光のコンテンツとして、庭園のPRを実施する。 各種イベント等で配布する観光パンフレットに、庭園の情報を掲載する。 <p>【主な開催催事・ブース出展催事】※（ ）は主催者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏・関西圏における愛知県観光物産展（愛知県） ・首都圏・関西圏における愛知の歴史観光展（あいちの歴史観光推進協議会） ・サムライ・ニンジャフェスティバル（愛知県） ・街道観光イベント：街道ウォーキング、講演会等（あいちの歴史観光推進協議会） ・ツーリズム EXPO ジャパン（日本政府観光局、日本旅行業協会、日本観光振興協会） 		

具体的な事業一覧表

事業名②	サムライガーデンを活用した観光コンテンツの造成		
実施主体	愛知・名古屋観光誘客協議会	事業期間	2026 年度 ~ 2030 年度
実施施設	参画庭園、県内の観光施設		
事業概要	<p>庭園を活用した観光コンテンツの造成及び特設サイトを通じた販売支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知・名古屋観光誘客協議会*では、地域の観光関係者（市町村・観光協会・事業者等）と連携して、この地域ならではの資源を磨き上げ、魅力的な観光体験プログラム（着地型旅行商品）として造成するとともに、特設サイトを通じた販売支援を実施している。 この取組の中で、庭園を活用した体験プログラム（例：庭園の見学と、食や他の体験等を組み合わせた旅行商品）の造成等を積極的に進めていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>※愛知・名古屋観光誘客協議会</p> <p>【設立】2020年3月27日</p> <p>【目的】観光関係者や事業者とのネットワークを活用し、当地域の観光魅力を大々的に発信し、国内外から愛知県内に多くの観光客を誘致し、観光関連産業の成長、並びに地域経済の発展に資する。</p> <p>【会長】愛知県観光コンベンション局長</p> <p>【構成】愛知県、名古屋市、（一社）愛知県観光協会、県内50市町村 （事務局：愛知県）</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  <p>旅愛知</p> <p>【名古屋市】気分は大富豪！ 国登録有形文化財「古川美術館・分館三郎記念館」でお茶席体験</p> <p>#名古屋 #体験 #女子旅 #お茶 #アート</p> <p>国登録有形文化財「古川美術館・分館三郎記念館」でお茶席体験</p> <p>ご旅行代金 並びに料 1グループ 60,000円～</p> </div>		

具体的な事業一覧表

事業名③	サムライガーデンを活用した県内周遊促進策の実施		
実施主体	あいちの歴史観光推進協議会	事業期間	2026 年度 ~ 2030 年度
実施施設	参画庭園、県内の観光施設		
事業概要	<p>(1) 庭園を巡るイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フォトコンテストやスタンプラリー等、県内各地の庭園を周遊するための事業を実施。 (例) 愛知サムライガーデンフォトコンテスト 2025 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">※一部の庭園で、写真を撮りたくなるような演出を実施</p> <p>(2) 庭園を含むモデルコースの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内に多く残されている、サムライ(武将)を始めとする歴史スポットと各庭園をストーリーでつなげることにより、歴史ファン層に「武将のふるさと愛知」についての理解を深めてもらう。 ・ 庭園が所在するエリアにおいて、庭園と歴史関連以外の観光スポットと組み合わせたコースを提案することで、庭園を訪れることをきっかけに歴史観光に興味を持ってもらうための仕掛けづくりをする。 <p>(3) 歴史観光スタンプラリーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県内各地の、武将、お城、街道観光スポットとあわせて、庭園をスポットに追加した「あいち歴史観光デジタルスタンプラリー」を実施。 <div style="text-align: right;">  </div> <p>(4) 歴史ファン層向け周遊ドライブマップへの庭園の掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車で歴史観光スポットを巡る旅行者向けのドライブマップに、庭園の情報を追加。 <div style="text-align: right;">  </div>		

具体的な事業一覧表

事業名④	サムライガーデンを活用したインバウンド誘客の促進		
実施主体	愛知県	事業期間	2026 年度 ~ 2030 年度
実施施設	参画庭園、県内の観光施設		
事業概要	<p>(1) 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県公式観光サイト「Aichi Now」や、公式SNSにおける多言語での情報発信 ・ メディア等を対象としたファムトリップへの庭園の組み入れ ・ 庭園コンテンツの海外OTAへの掲載支援 <p>(2) 観光コンテンツの販売支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庭園を組み入れたインバウンド向け体験型コンテンツの販売支援 <div data-bbox="405 1032 1043 1464" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">Nagoya-City Tokugawaen Garden</p> <div data-bbox="810 1592 1401 2024" style="text-align: center;"> </div>		

具体的な事業一覧表

<p>事業名⑤</p>	<p>観光関連事業者との連携</p>		
<p>実施主体</p>	<p>観光関連事業者 あいちの歴史観光推進協議会</p>	<p>事業期間</p>	<p>2026 年度 ~ 2030 年度</p>
<p>実施施設</p>	<p>参画庭園、県内の観光施設</p>		
<p>事業概要</p>	<p>観光関連事業者による庭園を活用した事業のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> メディアや旅行会社等、観光関連事業者が実施する庭園を活用した取組に対し、協議会として広報面で支援する。 (あいちの歴史観光推進協議会が運営する「あいちの歴史観光」Webサイトへの掲載等) <p>【過去に観光関連事業者による庭園の活用に向けた取組（一例）】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="435 1055 845 1556"> </div> <div data-bbox="869 1088 1276 1124"> <p>中日新聞社運営サイト「庭」</p> </div> <div data-bbox="954 1218 1428 1429"> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> </div> <div style="margin-top: 20px;"> </div> <p>「愛知のお庭印めぐり」</p>		